

---

# 三重県景気動向調査 (速報版)

---

平成 25 年第 2 回(4~6 月期)



三重県雇用経済部

調査実施機関 株式会社 東京商工リサーチ 津支店

## 目 次

I. 調査要領.....	1
II. 調査結果の概要.....	2

## 1. 調査要領

1. 調査時点：平成 25 年 5 月（前期＝25 年 1～3 月、今期＝25 年 4～6 月、来期＝25 年 7～9 月（予測））
2. 調査対象：三重県内の事業所 1,500 社
3. 調査方法：郵送によるアンケート調査
4. 回答状況：481 件（有効回答率 32.1%）
5. 調査企業の業種別、従業員規模別、地域別内訳

### 【業種別】

	件数 合計	製造業	建設業	運輸業	情報 通信業	卸・小売業	金融・ 保険業	サービス業
調査対象数	1,500	502	150	89	29	361	25	344
回答数	481	176	59	32	8	95	8	103
構成比(%)	100.0	36.6	12.3	6.7	1.7	19.8	1.7	21.4

### 【従業員規模別】

	件数 合計	5 人未満	5 人以上 20 人未満	20 人以上 50 人未満	50 人以上 100 人未 満	100 人以 上 300 人 未満	300 人以 上 500 人 未満	500 人以 上 1000 人 未満	1000 人 以上
調査対象数	1,500	307	564	250	125	153	46	29	26
回答数	481	68	152	108	54	65	17	6	11
構成比(%)	100.0	14.1	31.6	22.5	11.2	13.5	3.5	1.2	2.3

### 【地域別】

	件数 合計	津	四日市	松阪	伊勢	桑名	鈴鹿	伊賀	尾鷲	熊野
調査対象数	1,500	200	345	192	229	174	174	122	44	20
回答数	481	60	104	64	72	60	60	38	13	10
構成比(%)	100.0	12.5	21.6	13.3	15.0	12.5	12.5	7.9	2.7	2.1

地域名	対象市町	地域名	対象市町
津	津市	鈴鹿	鈴鹿市・亀山市
四日市	四日市市・菟野町・朝日町・川越町	伊賀	伊賀市・名張市
松阪	松阪市・多気町・明和町・大台町	尾鷲	尾鷲市・紀北町
伊勢	伊勢市・鳥羽市・志摩市・玉城町・ 南伊勢町・度会町・大紀町	熊野	熊野市・御浜町・紀宝町
桑名	桑名市・いなべ市・木曾岬町・東員町		

### 【注】

○構成比(%)については、小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合があります。

○数値の前に付した△は「マイナス」を表しています。

○DI (Diffusion Index の略)

DI (ディーアイ) は、増加（又は「上昇」「楽」など）したと答えた企業割合から、減少（又は「下降」「苦しい」など）したと答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらかの力が強いかを比べて変化の方向をみよとするものです。

なお、「仕入価格 DI」については、「低下」から上昇を引いた値、「雇用（人員過不足感）DI」、「在庫 DI」については、「不足」から「過剰」を引いた値を使用しています。

●平成 23 年 7～9 月以降の数値は、不明回答を除く回答結果で算出しておしているため、平成 24 年 5 月調査以前の公表結果とは一致しません。

## II. 調査結果の概要

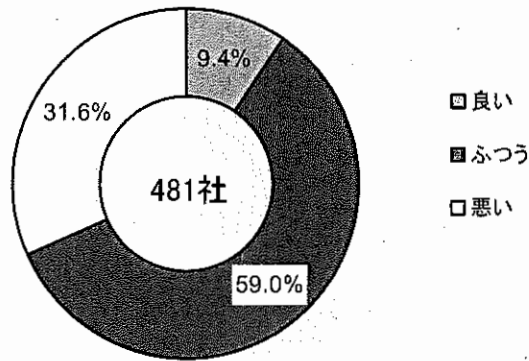
### 1. 景況感

「今期（平成 25 年 4～6 月）の県内景気」の水準について、「良い」は 9.4%、「ふつう」は 59.0%、「悪い」は 31.6%となっています。

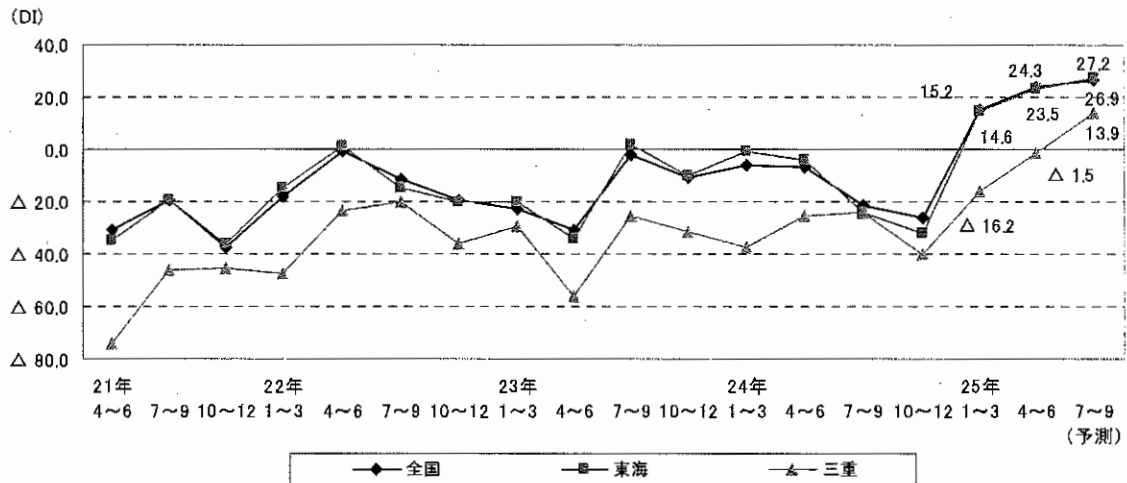
前期（平成 25 年 1～3 月）と比較した「県内景況感 DI」は、今期はマイナス 1.5 ポイントで、前期より 14.7 ポイント上昇し、大きく改善しました。来期はプラス 13.9 ポイントと今期より 15.4 ポイント上昇し、好調に転じると見込まれています。

内閣府『景気ウォッチャー調査』の全国と東海地方の景況感（4・5 月調査平均）をみると、現状・先行きともに好転を見込む割合が前期に引続いて高く、堅調に推移しています。

今期の県内景気(水準)



県内景況感 DI(前期比)と全国・東海地方の景況感



	21年	7～9	10～12	22年	4～6	7～9	10～12	23年	4～6	7～9	10～12	24年	4～6	7～9	10～12	25年	4～6	7～9 (予測)
三重県	△ 74.0	△ 45.9	△ 45.6	△ 47.6	△ 23.2	△ 20.3	△ 36.0	△ 29.2	△ 56.0	△ 25.3	△ 31.3	△ 37.1	△ 25.5	△ 24.0	△ 40.3	△ 16.2	△ 1.5	13.9
全国	△ 30.5	△ 19.5	△ 37.3	△ 17.9	△ 0.7	△ 11.4	△ 19.4	△ 22.7	△ 30.7	△ 1.8	△ 10.4	△ 6.2	△ 6.4	△ 21.7	△ 25.7	15.2	24.3	26.9
東海	△ 34.9	△ 19.6	△ 36.2	△ 15.0	1.3	△ 14.7	△ 20.2	△ 20.1	△ 33.7	2.2	△ 10.0	△ 0.8	△ 3.9	△ 24.3	△ 31.8	14.6	23.5	27.2

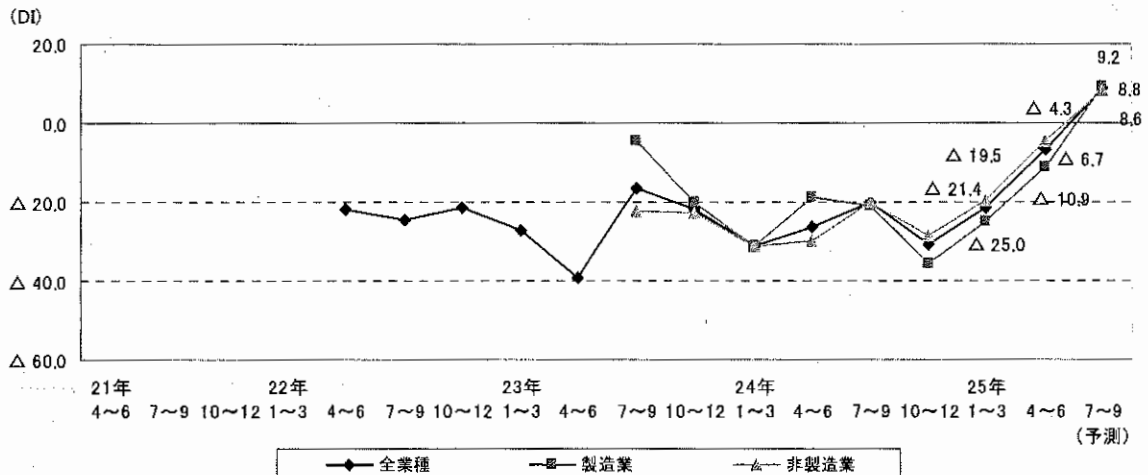
※景況感 DI=前期比で「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値。

※「全国」および「東海地方」は、内閣府『景気ウォッチャー調査』の月々の結果を当調査で使用している方法で再計算し、3ヶ月ごとに平均値を算出。なお、直近の値は4月調査と5月調査の結果の平均値である。

## 2. 業況 DI

自社の業況についてみた「業況 DI」(前期比)は、全業種でマイナス 6.7 ポイントとなり、前期から 14.7 ポイント上昇しました。来期はプラス 8.8 ポイントとさらに上昇し、水面下から抜け出すまでに好転することが予想されています。製造業はマイナス 10.9 ポイントと前期から 14.1 ポイント、非製造業はマイナス 4.3 ポイントと前期から 15.2 ポイントの改善となりました。製造業、非製造業ともに、来期はさらに改善する見通しとなっています。

業種別業況 DI(前期比)の動き(実績)と来期の予測



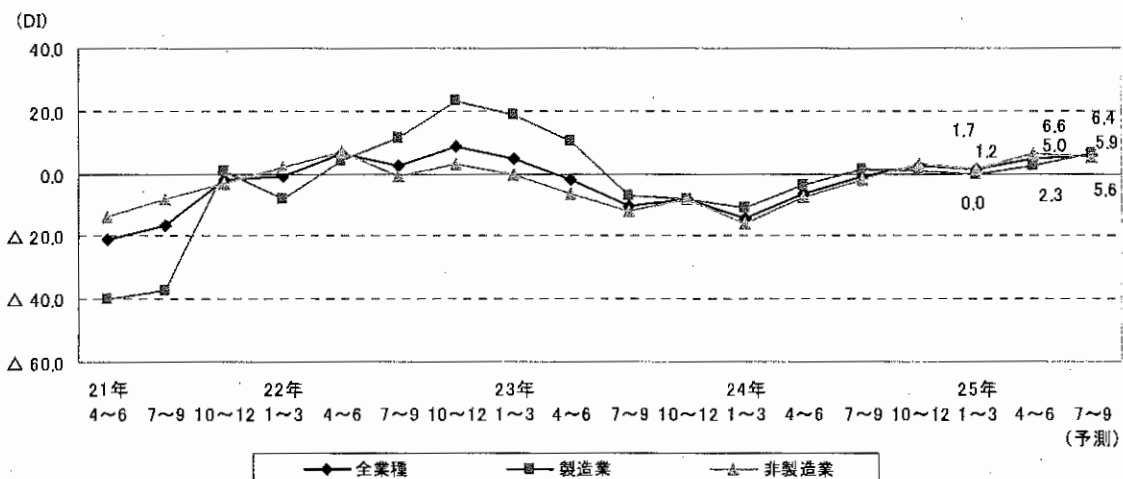
	21年	7~9	10~12	22年	4~6	7~9	10~12	23年	4~6	7~9	10~12	24年	4~6	7~9	10~12	25年	4~6	7~9
全業種					△ 21.9	△ 24.5	△ 21.5	△ 26.9	△ 39.1	△ 16.6	△ 21.7	△ 31.3	△ 26.1	△ 20.2	△ 30.8	△ 21.4	△ 6.7	8.8
製造業										△ 4.5	△ 19.8	△ 31.3	△ 18.8	△ 20.7	△ 35.4	△ 25.0	△ 10.9	9.2
非製造業										△ 22.1	△ 22.5	△ 31.3	△ 29.9	△ 19.8	△ 28.3	△ 19.5	△ 4.3	8.6

※業況 DI=前期比で、自社の業況が「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値。

## 3. 収益 DI

「収益 DI」は、全業種で今期はプラス 5.0 ポイントとなり、前期から 3.8 ポイント上昇しました。来期はプラス 5.9 ポイントとさらに改善する見通しです。製造業は、今期がプラス 2.3 ポイント、来期がプラス 6.4 ポイントで、非製造業は、今期がプラス 6.6 ポイント、来期がプラス 5.6 ポイントの見通しとなっており、来期見通しは製造業が非製造業を上回ると予想されています。

業種別収益 DIの動き(実績)と来期の予測



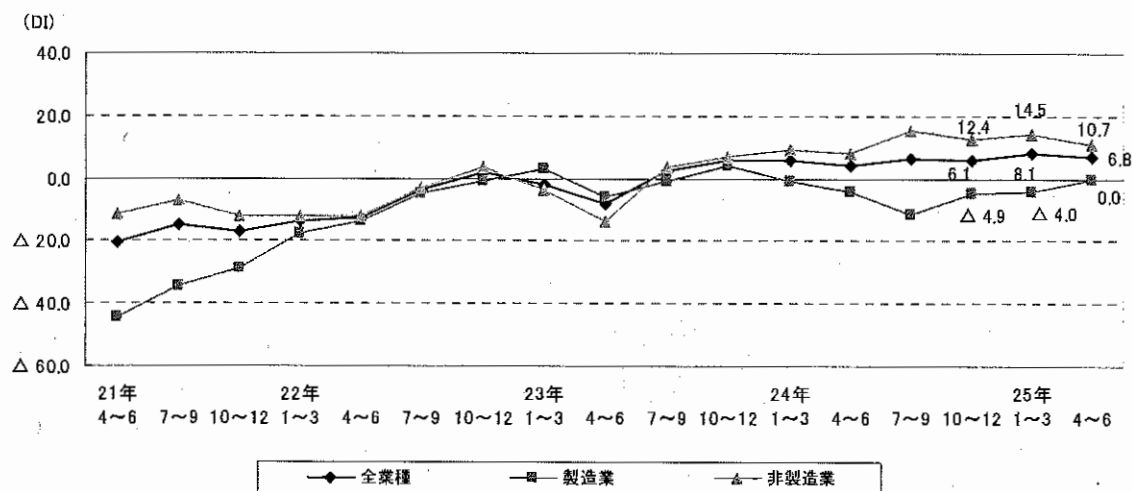
	21年	7~9	10~12	22年	4~6	7~9	10~12	23年	4~6	7~9	10~12	24年	4~6	7~9	10~12	25年	4~6	7~9
全業種	△ 21.0	△ 16.3	△ 1.7	△ 0.9	6.3	2.8	8.9	4.9	△ 1.8	△ 10.4	△ 8.1	△ 14.3	△ 6.1	△ 0.8	2.4	1.2	5.0	5.9
製造業	△ 40.0	△ 37.3	0.9	△ 8.3	4.1	11.4	23.0	18.8	10.3	△ 7.2	△ 8.2	△ 10.7	△ 3.8	1.7	1.1	0.0	2.3	6.4
非製造業	△ 13.9	△ 7.9	△ 3.0	2.1	7.3	△ 0.8	3.4	△ 0.4	△ 6.6	△ 11.9	△ 8.1	△ 15.9	△ 7.4	△ 1.9	3.2	1.7	6.6	5.6

※収益 DI=収益が「黒字」とする企業の割合から「赤字」とする企業の割合を引いた値。

#### 4. 雇用(人員過不足感)DI

「雇用(人員過不足感)DI」は、全業種でプラス6.8ポイントとなり、不足感がやや緩和しました。製造業は0.0ポイントと前期より4.0ポイント上昇し、非製造業はプラス10.7ポイントと前期から4.5ポイント下降しました。

業種別雇用の動き(実績)と来期の予測



	21年 4~6	21年 7~9	21年 10~12	22年 1~3	22年 4~6	22年 7~9	22年 10~12	23年 1~3	23年 4~6	23年 7~9	23年 10~12	24年 1~3	24年 4~6	24年 7~9	24年 10~12	25年 1~3	25年 4~6
全業種	△ 20.1	△ 14.7	△ 16.9	△ 13.4	△ 12.3	△ 3.7	2.2	△ 1.7	△ 8.0	2.3	6.2	6.2	4.0	6.3	6.1	8.1	6.8
製造業	△ 44.2	△ 34.3	△ 28.6	△ 17.7	△ 13.4	△ 4.7	△ 1.0	3.1	△ 5.8	△ 0.7	4.5	△ 0.7	△ 4.4	△ 11.6	△ 4.9	△ 4.0	0.0
非製造業	△ 11.3	△ 6.8	△ 11.8	△ 11.7	△ 11.8	△ 3.2	3.5	△ 3.6	△ 13.4	3.7	7.0	9.2	8.4	15.5	12.4	14.5	10.7

※雇用(人員過不足感)DI=今期の人員が「不足」とする企業の割合から「過剰」とする企業の割合を引いた値。

#### 5. 要約

前期と比べた県内景況感DIは、今期・来期見通しとも大きく改善し、21年4~6月期以降で最も高い水準となっています。

業況DIについても、今期・来期見通しともに大きく改善しています。業種別にみると、いずれの業種でも改善傾向にあります。今期は、特に金融・保険業や運輸業、サービス業が大幅に改善しており、来期については、運輸業、製造業、卸・小売業などが大幅に改善する一方、金融・保険業は好調感が縮小する見通しとなっています。

売上高DIは、今期・来期ともに大幅に改善する見通しとなっています。

仕入価格DIについては、原材料価格、燃料価格、輸入品価格の上昇が影響・懸念され、今期・来期とも厳しい水準が続いています。特に運輸業では、前期より改善したものの大幅なマイナスとなっています。

一方、販売価格DIは今期・来期ともに改善しており、収益DIについては今期・来期ともプラスとなり、4期連続でプラスを維持する見通しとなっています。

雇用DIは不足感がやや落ち着きました。設備投資意欲DIは、今期大幅に改善して下降から上昇に転じ、来期はさらに上昇を強める見通しとなっており、また上半期(4~9月)における設備投資計画額DI(前年同期比)も大きく改善し、上昇に転じています。夏季ボーナスの支給見通しでは、アップすると回答した企業が20.9%となりました。